

2023年度 自己評価報告書

星稜中学校

「成果指標」について

それぞれの項目の成果指標は、学校生活アンケートと学校評価アンケートの下記の質問番号の回答により、A：できた(80%以上)・B：概ねできた(70%以上)・C：やや不十分だった(60%以上)・D：不十分だった(60%未満)の4段階で達成度を判断する。

※学校生活アンケートの場合は「できている・概ねできている」を選択したパーセンテージ。

※学校評価アンケートの場合は「当てはまる・どちらかと言えばあてはまる」を選択したパーセンテージ。

生徒指導 ①②③④ 学校生活アンケート

学習・進路指導 ① 学校評価アンケート①・②・③ ② 学校評価アンケート⑦ ③ 学校評価アンケート⑨

具体的取り組み		評価の観点 達成度判断基準	評価	評価の分析と改善の方策
生徒指導 —基本的生活習慣の確立—				
①	けじめある学校生活を送るために、登校時間を守り、授業開始のチャイムと同時に着席する習慣を身につけさせる。	成果指標 A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	B	前期生徒会の目標の一つとして取り組んだ。全体的に遅刻する生徒は少なかったが、授業準備が遅れる生徒が見られた。授業担当者の協力を得ながら継続的に指導していきたい。
②	明るく気持ちの良い挨拶の励行により、言葉遣いや礼儀作法を身につけさせる。	成果指標 A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	B	学校生活アンケート平均 81.9% 部活動での指導もあって、全体的には気持ちの良い挨拶ができる生徒は多い。言葉遣いについては引き続き指導が必要である。
③	教室掃除や身の回りの整理整頓に心がけ、環境美化に努めさせる。	成果指標 A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	B	学校生活アンケート平均 77.5% 教室掃除はできているが、校内の美化活動や身の回りの整理整頓への意識は低い。学校全体で取り組むことが大切である。
④	自転車マナー・ヘルメットの着用など交通法規を守り安全な登下校に努めさせる。	成果指標 A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	A	学校生活アンケート平均 84.7% 4月に実施した交通安全教室・自転車通学説明会を実施し、成果が見られた。来年度も、毎朝駐輪場指導を行ない、生徒の安全を見守ることを徹底したい。
学習・進路指導 —6年間の一貫指導における難関大学への進学を目指す—				
①	学力向上のために、習熟度別授業・実力試験等を積極的に実施するとともに、毎日の家庭学習を定着させる。	成果指標 A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	A	学校評価アンケート①・②・③平均 80% 各教科の学習指導は充実しており、学力向上に十分な成果を挙げているという質問では、各学年とも昨年度より高い評価であった。来年度も、定期試験前の質問講座の開講、実力試験の答案見直し週間設定、終礼時に家庭学習項目の確認をさせることの徹底、学習意欲を高めるための学力向上コンテストの実施など、様々な企画を打ち出していきたい。
②	学習と部活動の両立を目指し、生徒がそれを実現できるように配慮し、指導するように努める。	成果指標 A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	A	学校評価アンケート⑦ 82% 生徒は、しっかりと両立を目指して努力している。定期試験成績上位者の中にも部活動を行っている生徒が多数いる。
③	ICT教育の導入により、タブレットPCを授業や家庭学習で活用し、学習の効率向上に役立てるように努める。	成果指標 A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	A	学校生活アンケート⑨平均 93% タブレットPCを用いてMetaMoJi クラスルーム等を通じ課題に取り組めた。各教科の特性に応じ、効果的に利用できている。

具体的取り組み		評価の観点 達成度判断基準	評価	評価の分析と改善の方策
部活動 —全国大会の出場を目指す—				
①	部活動での全国大会出場を目標とする。	成果指標 A：4 競技以上出場 B：2～3 競技出場 C：1 競技出場 D：全国大会出場なし	B	野球部 全日本少年軟式野球大会（8月）3位 文部科学大臣杯 全日本少年春季軟式野球大会 出場（3月） 全国中学校スキー大会 出場（2月）
②	部活動に対して十分な指導と支援を行なうことによって、生徒の技能が向上するとともに、人間的にも成長できるように努める。	成果指標 A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	A	今年度からスポーツ同好会も発足し、担当教諭を中心に意欲的に取り組むことができた。本校の部活動は、専門的な知識と経験を持った顧問が指導を行い北信越大会、全国大会へと導いている。
生徒募集活動				
①	学校要覧及び学校案内はもちろん、生徒募集に関わるすべての企画において、中高一貫教育を柱とする本校の新しい教育活動の認知度が高まる広報活動を行う。 【生徒募集に関わる企画】 ・学校要覧 ・学校案内（通常） ・学校案内（簡易版） ・学校見学会（2回） ・学校説明会（4回） ・スタ★ラボ（科学・工作・クッキング教室） ・学校見学会・説明会チラシ（2回） ・学校行事公開 ・公開授業	成果指標 A：4 項目以上で達成できた B：3 項目以上で達成できた C：2 項目以下しか達成できなかった D：取り組めなかった	A	今年度も学校説明会・学校見学会の申し込みをすべて Web で行った。学校見学会（7、11月）参加申込数 221 名（前年比 120%）。学校説明会参加申込数 89 名。スタ★ラボおよび部活動体験数申込者は 244 名。本校の新しい教育活動の認知度は高まっているといえる。学校の説明会を知ったきっかけをアンケートで尋ねたところ、リーフレット・Web サイト・友人知人の紹介が上位を占めた。
②	昨年度に引き続き、中学生が入寮できる寮についても含めて Web 広告、雑誌への掲載広告を全国の小学生対象に行う。	成果指標 A：できた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	A	広報活動の一環として、今年度は、Instagram を開設。約 100 件投稿、フォロワー数は約 270 である。（2024 年 3 月現在）
③	学校説明会と学校見学会の参加者合計 300 名以上、志願者 150 名以上を目指す。	成果指標 A：志願者 150 名以上 B：志願者 130～149 名 C：志願者 110～129 名 D：志願者 109 名未満	C	学校説明会申込者数・学校見学会の参加数 479 名（前年比 117%）。志願者数 114 名（前年比 79%）。
④	小学校訪問・塾訪問を積極的に行い、関係強化に努める。	努力指標 A：確実にできた B：概ねできた C：やや不十分だった D：不十分だった	A	今年度は小学校訪問・塾訪問を拡大して行った。金沢育英センター・東大セミナーでの説明会をそれぞれ春秋と 2 回行った。
《次年度における校務改善に向けて》				
<p>中高一貫教育校として新しく歩み始め、7 年目を無事終えることができた。上記の評価報告では生徒指導、学習指導、部活動、生徒募集活動と大きく 4 つの観点から報告されているが、総じて A 評価と結論づけておきたい。ただし、志願者数の成果指標が C 評価であったため、広報活動の取り組みを精査し、学校説明会と学校見学会に加えて、学外での進学説明会をより強化するように計画した。今後も、保護者アンケートや学校生活アンケートで、満足する評価が得られるように、各項目を検証し、教育活動を進めていく。加えて、県内初の取り組みとしての先取り教育や、グローバル、サイエンス、キャリアプログラムの検証を行い、より良くするための方策を考え実施していく。</p> <p>次年度も保護者の方々のご理解とご協力を得ながら、新しい教育をリードする中高一貫教育校として勇猛精進していきたい。</p>				